

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>ピュアスウィング II・ナノデス</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.460</b>	△RG <b>0.060</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：ピュアスウィングII・ナノデス**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  インチ

番

**比較対照ボール：ピュアスウィング・ナノデス**

フレアーの幅  インチ

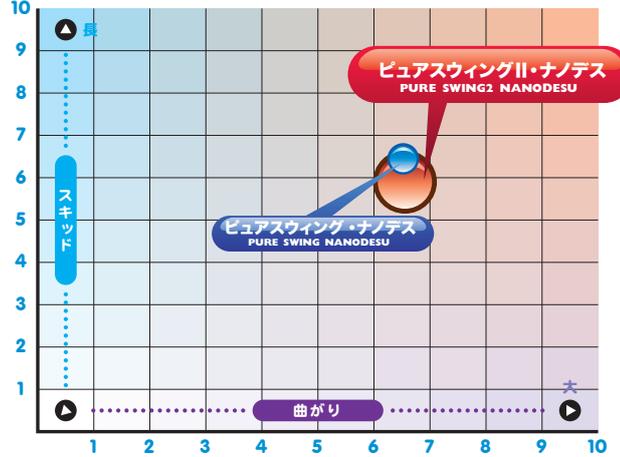
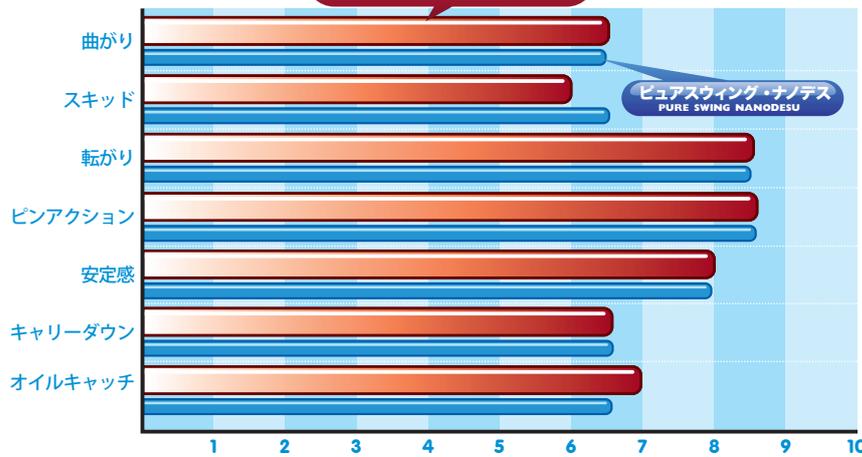
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  インチ

番



**ピュアスウィングII・ナノデス**  
PURE SWING2 NANODESU



### ボールの評価

ウレタン素材で国内問わず国外でも追従を許さないABSのPure-Swingシリーズ。高性能になり過ぎたからこそ再びウレタンボールにニーズが集まるのは必然で、オイルが必要とされる現代のカバーストックが必要なのと同じくして、そのカバーストックで割り取ってしまったオイルで投げられるボールが必要とされるのも避けられない関係なのかもしれません。

ただ単にスキッドするだけのウレタン素材ではなく、キャッチを作りながら走り系のリアクティブウレタンとしっかりとすみわけができるのが国産の良質なウレタン素材で、リアクティブのドライゾーンでのオーバーアクションを回避できることと、独特なオイルとドライゾーンの使い方から最近では様々なコンディションに対峙する競技者を中心に、レフティーの選手などが強めのレイアウトを施し使用しています。日本独自の衝撃吸収コアシステムはもはやウレタン素材とは思えない柔らかいピンアクションを実現させ、"ウレタンボール=ピンアクションが硬い"概念はPure-Swingシリーズにはあてはまりません。オイルと削られた際を投球することもできますし、中から早めに薄いオイルに合わせながら大きく幅を取りながら投球することもできるでしょう。コアの大きなネジレを急激にカバーが受け止めるのではなく、持続的な緩やかなキャッチでドライゾーンでも急激に向きを変えることなく曲り戻りを最小限に抑えてくれるでしょう。国産ならではの細部まで手をかけ、納得いくまで作り直しを繰り返して仕上げました。他社のウレタンボールとどう違うのか?それは投球すれば歴然です。

### 特記事項

**良く転がり、大きくネジれるコアに最新のウレタンカバーストックで仕上げました。ピンに絡みやすい柔らかいピンアクションを向上させ、ウレタンの域を超えています。**